

研究テーマ	感性を働かせながら、技能を高め、見方や感じ方を広げることができる指導の在り方 —第3学年「自分を表そう」～鉛筆を使った自画像の制作～を通して—
-------	--

高萩市立高萩中学校 教諭 柴田 卓

I 研究テーマについて

中学校学習指導要領によれば、「感性とは、様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなすものである。」とある。また、「表現や鑑賞の活動を通して視覚や触覚などを十分に働かせ、これまでの表現や鑑賞の経験なども生かして形や色彩、材料などからそれらの性質や感情、イメージなどを豊かに感じ取るような学習が重要である。」としている。

本題材のテーマである、「感性や発想力を働かせる」ために、ただ鏡に映った自分を描くのではなく、自分らしいポーズを考えてみたり、自分の性格や見た目の特徴、持っている雰囲気进行分析してみたりして、自分と向き合うプロセスを大切にしたい。そして、言葉にしたものや感じたものを、実際に表現しようとする活動を通して、芸術家や他の生徒の作品を鑑賞した時、自分との比較によって、新しい見方を見つけたり、深めたりといった感性を育みたい。

以上のことから、生徒が、自分で考え、感じることによって、自らの制作の主題を見つけることができるような指導の在り方について研究するために、鉛筆デッサンによる自画像制作を題材に授業を実践した。

II 研究の実際

1 題材名 自分を表そう

2 題材の目標

- 自己の内面を見つめ、自分らしさを表現しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 自己を深く見つめることで、絵画の主題を生みだし、構図のとり方や鉛筆の濃淡などの効果を生かして表現の構想を練ることができる。 (発想・構想の能力)
- 構図のとり方による人物の見え方の違いや、鉛筆画の特性を生かして、表現を創意工夫することができる。 (創造的な技能)
- 感性と知性の両面を豊かに働かせ、作者の、自らの生き方を追求する姿勢や精神の深まりを見だし、よさや美しさへの見方を深めることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、美術への苦手意識は高いものの、試行錯誤しながら取り組むことができる。また、わからないことがあったことがあった時に、互いに教え合える雰囲気のある学級である。前年度末、明暗をとらえる学習として設定した、黒いスクラッチボードを明暗の境界を意識しながらハッチングで制作する授業では、写真を模写する安心感もあってか、熱心に取り組んでいた。形を自分でスケッチしたりといった作業では苦手意識が高い一方、型が決まっている課題に対しては、しっかり取り組む力があることが伺われた。

【アンケートの結果】

男子 21 名 女子 17 名 38 名 (平成 29 年 6 月 27 日実施)

	とても当てはまる	当てはまる	どちらでもない	当てはまらない	まったく当てはまらない
人物を描くことが得意	1	2	15	7	13
自分を描くことに抵抗がある	11	9	16	1	1

アンケートの結果からは、人物を描くことに強い苦手意識があることが分かる。また、自分を描くことに抵抗を感じている生徒が約半数を占めている。

【「真珠の耳飾りの少女」の模写の達成度の結果】男子 23 名 女子 17 名 40 名 (平成 29 年 1 月実施)

達成度	1(未記入)	2(努力を要する)	3(まあ良い)	4(おおむね満足)	5(とても良い)
形	5%(2)	12.5%(5)	62.5%(25)	20%(8)	0%
明暗	5%(2)	10%(4)	62.5%(25)	17.5%(7)	5%(2)

(2) 教材観

昨年度末に実施した、フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」の人物絵画を形や明暗をとらえながら鉛筆デッサンの技能を用いて模写する課題では、8割の生徒が形のとり方や明暗の付け方を、自分の表現意図に合わせて使いこなすためには未習熟な状態であった。本題材では、生徒の明暗をつける技能での未習熟な部分を補いながら、前年度の課題を深める学習に取り組みたい。

本題材は、A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現に当たる内容である。3年生は、修学旅行を終え、本格的に進路について考え始める時期である。この時期に際して、自分自身に向き合い、生き方や在り方に対する見方を深めることをねらいとする。また、本学年は昨年度、「明暗のドラマ」という題材で、黒のスクラッチボードに自分の好きな写真やポストカードを、ハッチングの技能を用いて、明暗をつけて模写する課題を通して、光と影のコントラストをつけることの効果と、明暗の描き方を学習している。本題材でも、ハッチングを使って、線の密度を変えることによって、明暗や立体感を付け、そこで、より深く明暗の表現の技能を身に付けられるようにしたい。また、B鑑賞(1)A造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げることとも関連付けて、技能と鑑賞の両面から、感性や物の見方を深める題材としてふさわしいと考えた。

(3) 指導観

美術科における自己を表現する活動は、多くは内面の表出であるため、思春期のまっただ中にある生徒にとっては、時に苦痛や嫌悪を伴いやすい題材である。しかしそれは、自己を受け入れる成長の過程とも捉えることができる。本題材では、多くの生徒がつまづきやすい人物の描写を、手順をひとつひとつ確認することで描きやすくしたい。また、写真を用いて陰影の形や明暗のコントラストを確認することによって、明暗の表現に焦点化しやすくすることをねらいとしている。表現意図に合わせてコントラストの度合いを変えたり、アウトラインに強弱をつけたり、ぼかしやハッチングを用いたりといった、鉛筆デッサンの技能を高めていきたい。そして、制作の合間にいろいろな画家の自画像の表現の変遷を鑑賞することで、自らの生き方を考え、精神の深まりや、生きる葛藤と喜びが生み出す表現の、よさや美しさへの見方を深めていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	創造的な技能	鑑賞の能力
自己を見つめることで、 絵画の主題を生み出そうとする。	自分らしさを見つめ、表現を 創意工夫することができる。 表現意図に合わせて描き方を 工夫することができる。	自分を描くことに対する、 よさや美しさへの見方を深め ることができる。

5 指導の評価の計画（11時間取り扱い）

第1次	自画像とは	……………	1時間
第2次	アイデアスケッチ	……………	2時間
第3次	自画像制作	……………	6時間

時	学 習 活 動	評 価 計 画				
		関	発	技	鑑	評 価 規 準
1	・アイデアスケッチの構 想を基に、下描きをす る。	◎				・自己を見つめることで、絵画の主題を生み出そう とする。 (観察, 作品)
2	・人体の比率やバランスを 考えながら輪郭を描く			◎		・人物の見え方の違いを考えながら構図をとること ができる。 (観察, 作品)
3	・人物の見え方を考えて描 く。			◎		・人物の見え方の違いを考えながら構図をとること ができる。 (観察, 作品)
4 本時	・自分らしさをとらえなが ら人物や背景を描く。			◎	○	・自分らしさを見つめ、表現を創意工夫することが できる。 (観察, 作品) ・自分を描くことに対する、よさや美しさへの見方 を深めることができる。 (観察, ワークシート)
5	・濃淡などの効果を生かし て人物や背景を描く。		◎		○	・表現意図に合わせて描き方を工夫することができ る。 (観察, 作品) ・鉛筆画の特性を生かして表現できる。 (作品)
6	・背景を描く		◎		○	・自己を深く見つめることで絵画の主題を生み出す ことができる。 (観察, 作品) ・表現意図に合わせて描くことができる。 (作品)

第4次	自画像の鑑賞	……………	2時間
-----	--------	-------	-----

6 指導の実際

(1) 目 標

- ・自分らしさを見つめ、鉛筆デッサンの表現やコントラストの表現を創意工夫することができる。
(創造的な技能)
- ・人物を描くことに対する、よさや美しさへの見方を深めることができる。(鑑賞の能力)

(2) 準備・資料

- ・作品, 写真のコピー, 鏡, 鉛筆, 掲示資料, 言葉のカード, 参考作品, ワークシート,

(3) 展 開

学習活動・内容	指導上の留意点（○は個への配慮）と評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="240 360 767 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の顔を見つめた時の「自分らしさ」は、どのように表現することができるのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・著名人の目の拡大写真を見て、そこで受ける印象が、何から来るものか考える。 <div data-bbox="279 613 761 815" style="text-align: center;">  </div> <p>2 自分の顔の特徴やイメージを分析する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使って、自分の目や顔の特徴や印象、表現したいことを言葉にする。 <p>3 自分の目や顔を、よく観察して描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の写真や鏡を見ながら、特徴をよくとらえて描く。 ・自分の目や顔から受ける印象、表現したいイメージを基に、鉛筆の表現技能を生かして表現方法を創意工夫する。 ・黒板に示された、コントラストや鉛筆のタッチの違いの資料を基に、表現意図をもって作品を制作する。 <div data-bbox="240 1473 791 1666" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・形を注意深くとらえることによって、その人らしさを伝えることができる。 ・鉛筆のタッチやコントラストを工夫することによって、メリハリが生まれ、個性を表現することができる。 </div> <p>4 用具や作品の片付けをする。</p> <p>5 本時の制作の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カルテを使って、本時の学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・著名人の目の拡大写真を見せ、特徴や印象を言葉にすることで、本時のねらいを確認する。 ・目や顔の特徴や印象に焦点化して考えることによって、本時のねらいを明確にする。 ・目だけ拡大コピーした写真を見せ、誰の目か当てさせることによって、人の目がもたらす、その人に対する印象の大きさを感じられるようにする。 ・目や顔の形や大きさなどの具体的な特徴と、受ける印象やイメージなど抽象的な特徴を、分けて考えてみるよう助言する。 ○なかなか言葉が思い浮かばない生徒には、特徴や印象を表す言葉の例を用意して、それを参考に考えられるよう支援する。 ○ネガティブな言葉ばかり出てきてしまう生徒には、言葉を言い換えたり、よいところを率直に伝えることによって、自分と向き合えるよう励ます。 <div data-bbox="815 972 1509 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(評)自分の顔の特徴やイメージを分析し、表現につながるよう言葉にすることができる。 (ワークシート、発表)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の、目をデッサンで立体に見せるポイントを思い出すよう助言する。 ・目の立体感を表すには、まぶたや鼻筋などの目の周辺の陰影の表現が大切であることを助言する。 ○形を追うことに夢中で線が硬直してきた生徒には、描くものの手触りをイメージしながら鉛筆の筆圧を加減するよう助言する。 ○描き込み過ぎて必要以上に画面が暗くなってしまった生徒には、消しゴムを使って明るくなっているところの鉛筆の色を薄くするよう助言する。 ○手が止まっている生徒には、実際に目の前で描いて見せ、真似してみるよう助言する。 <div data-bbox="815 1615 1474 1704" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(評)表現意図によって鉛筆デッサンの技法を創意工夫することができる。(観察、作品)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次時に向けて、どのような点をごんばったか、改善したいか、本時にどこがよくなったかなど、具体的に言葉にするよう助言する。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

導入で有名人の目の拡大写真を見せ、誰の目かをクイズに出したことによって、人の顔の特徴について興味を持たせることができた。顔の特徴を客観的に分析する視点を導入において示すことによって、自分の顔を見ることの抵抗感が和らいだように感じた。

ひとつひとつ手順を追って人物の描写を教えることによって、絵を描くことが苦手な生徒も、作品の制作をすすめることができた。また、実際に生徒の前で描いて見せることによって、生徒は手つきや描き方の手順を参考にすることができ、技能の習得が早まった。

2 今後の課題

美術が苦手な生徒に合わせて、手順をおって制作をゆっくり進めたために、制作時間が長引いてしまった。個々人の制作スピードに大きなばらつきが見られ、本人のこだわりと制作の進捗がかみ合う授業スピードをつかんでいきたい。また、導入や小課題を増やそうとすると、作業の時間を圧迫してしまい、それらを省略すると、作業が単調になってしまい、苦手意識の強い生徒の集中力が持続しなかった。黙々と作業がしたい生徒と、人にアドバイスをもらいながらでないと制作が進まない生徒に二分されていたことを考えると、学習形態を、進捗や習熟度別などにする工夫があるとよかったかもしれない。自分の特徴を言葉にするのは、プリントに書かなくても、口頭でペアワークとしてやり取りすればよかったかもしれない。時間をとった割には書けている生徒が少なかった。授業構成のメリハリと、時間配分や授業形態について見直していきたい。